

第2回

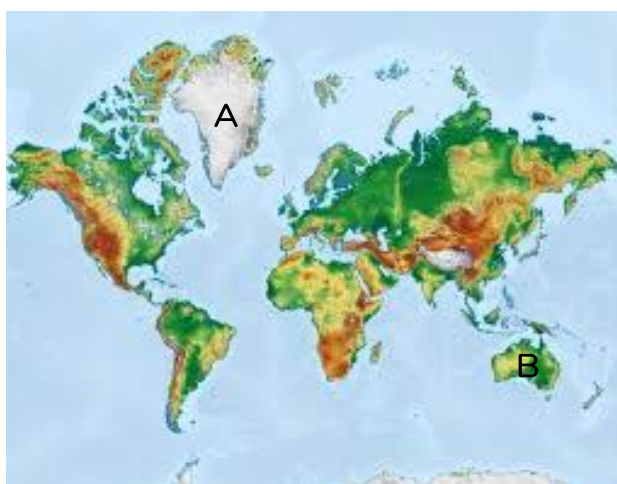
あび中

社会科通信

2020/4/27

* ?を! に変える楽しみ *

社会科は地理的分野、歴史的分野、公民的分野の3つで構成されています。今回の社会科通信では地理的分野の魅力について紹介したいと思います。右の地図を見てください。世界最大の島「グリーンランド」【地図中A】と世界最小の大陸「オーストラリア」【地図中B】ではどちらの方が大きいと思いますか？見た目は明らかに「グリーンランド」ですよね。でも、「大陸」とつくのだから、「オーストラリア」の方が大きいかもしれませんよ……さあ、どちらでしょうか？



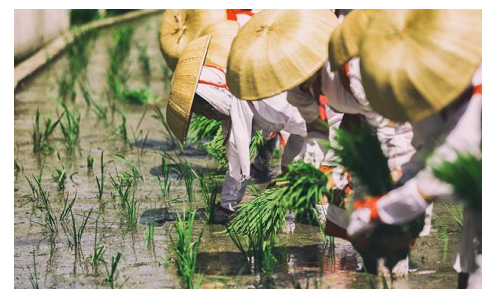
答えは…Bのオーストラリアです！！正解でしたか？地図は立体である地球を平面にして表現しているため、面積や距離などすべてを正しく表現できません。この地図は面積が正しく表現されなかったのです。

では、実際には何倍くらい大きさに違いがあるのでしょうか？その答え＝「真実」を見つけるために使うツールが地図帳です。地図帳は社会の「辞書」と言われます。わからない文字があれば、国語で辞書をひくように、地理でわからない地名などが出てきたら、地図帳を使ってみましょう。特に統計資料に載っている具体的な数値のデータ＝「数字」は嘘をつきません！！数値による「真実」はいつも1つ！

「どちらかな？」、「どうなっているんだろう？」と疑問に思ったことを調べて、「なるほど！」、「そうだったんだ！」とスッキリすることが勉強の醍醐味の一つであると思いますが、それをより体感しやすいのが社会科の地理的分野ではないかと思います。みなさんもこの休校中に自分の地図帳を使って、オーストラリアはグリーンランドの約何倍になるか調べてみてはいかがですか？【答えは次号に掲載予定】

ご近所フィールドワーク ～住吉大社～

住吉区のシンボルといえば、住吉大社。初詣や七五三など、様々な節目に訪れたことのある人も多いと思います。この住吉大社で毎年「御田植神事」という祭りが行われていることを知っていますか？



弥生時代に中国・朝鮮から稲作が伝わってからの

うもの、日本人にとって大切な主食となった米。そんな米を作る田んぼの神様をまつる田植え行事は全国各地で行われていますが、なんと住吉大社の「御田植神事」は日本で最も格式が高い祭りだと言われており、重要無形民俗文化財に指定されているのです。

神事は毎年6月14日に執り行われます。神前から授かった早苗を、早乙女（女性）たちが田植歌を口ずさみながら神田に植えていきます。神田中央の舞台では巫女8人が八乙女舞、子どもたちが田植踊を踊って豊かな実りを祈ります。また、鎧と兜で身を固めた武者たちが風流に行列で練り歩きます。舞台で最後の住吉踊が奉納される頃、神田の田植えも完成を迎えます。

住吉大社ができた頃から千数百年（！）にわたって厳格に伝承されてきた「御田植神事」、コロナが落ち着いたらぜひ見学してみてくださいね。

はたら 働く 「やってみなはれ」



5月1日はメーデーです。メーデーとは、国際的に行われる労働者の祭典のことで、日本では1920年に第一回が行われました。5月ということで、今回のテーマは「働く」です。

堺筋本町駅の近くに大阪企業家ミュージアムがあります。大阪を舞台に活躍した起業家を紹介する施設です。この施設で紹介されている人物は松下幸之助、小林一三ら105人。そのなかに、サントリーの創業者、鳥井信治郎がいます。彼は大阪生まれで、現在の大阪ビジネスフロンティア高等学校の出身です。鳥井信治郎といえば「やってみなはれ。やらなわからしまへんで」の言葉が有名ですね。ワイン・ウイスキーの国内生産への挑戦を失敗を恐れずにやりきった精神がその言葉から見えてきます。サントリーには今でも「やってみなはれ」精神が根付いています。

「やってみなはれ」精神が生み出してきたものは、ビールやコーヒー、お茶など飲料だけではなく、不可能の象徴と言われてきた青いバラまであります。「結果を恐れてやらないこと」を悪とする社風の成果です。

鳥井信治郎は13歳から丁稚奉公として働きましたが、今は15歳を迎えた春から仕事に就くことができます。「やってみなはれ やらなわからしまへんで」という大阪のことばは、あなたたちが働くときに、進むべき道を教えてくれるかもしれません。